

第4回 第2次石垣市観光基本計画素案検討会

議事要旨

日 時	令和4年3月4日（金）14時00分～16時30分
場 所	石垣市役所コミュニティールーム
出席者	<p>越智 正樹 会長(琉球大学 国際地域創造学部 教授)</p> <p>高橋 秀明 副会長(石垣市観光交流協会 副会長)</p> <p>山田 桂一郎 委員(JTIC. SWISS/観光カリスマ、内閣官房クールジャパン検討委員)</p> <p>大堀 健司 委員(石垣島アウトフITTERユニオン 会長)</p> <p>西村 亮一 委員(石垣島クリエイティブフラッグ 代表理事)</p> <p>平良 佳子 委員(石垣市織物事業協同組合 代表理事)</p> <p>赤池 進 委員(JA ファーマーズマーケットやえやまゆらていく市場 店長)</p> <p>伊良皆 誠 委員(音楽創造都市石垣推進市民協議会 代表)</p> <p>黒島 剛 委員(映像工場 代表取締役社長)※嵩本様(代理出席)</p> <p>岩倉 千花 委員(八重山ヒト大学 副学長)</p> <p>鈴木 信高 委員(石垣市観光交流協会 事務局長代理)</p> <p>金城 徹 委員(八重山ビジターズビューロー 専務理事)</p> <p>通事 太一郎 委員(竹富町世界遺産推進室長)※後上里様(代理出席)</p> <p>山本 以智人 委員(環境省石垣自然保護官事務所 上席自然保護官)</p>
事務局	<p>玻座真、前盛、向井(観光文化課)</p> <p>高牧、井芹(ランドブレイン株式会社)</p>
欠席者	<p>鈴木 達也 委員(八重山ダイビング協会会長)</p> <p>根原 工 委員(株式会社石垣島物産公社専務取締役)</p> <p>新城 和彦 委員(八重山漁業協同組合 参事)</p>

<会次第>

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 関係資料説明
第2次石垣市観光基本計画素案
 - (2) 意見交換
- 4 その他
- 5 閉会

<配布資料>

- ・資料：第2次石垣市観光基本計画素案
- ・参考資料：パブリックコメント・意見内容
第3回 第2次石垣市観光基本計画素案検討会議事要旨

○議事内容

- ・第2次石垣市観光基本計画策定に係り、上記の次第に基づいて第4回 第2次石垣市観光基本計画素案検討会を行った。

【以下、発言要旨】

越智会長	本日は最後の委員会となりました。本委員会では観光基本計画素案を確定することがミッションではあるが、意見を3月8日の観光開発審議会に申し送ることもできるため、遠慮せずにご発言いただきたい。 本計画には「観光まちづくり」という文言を入れているが、世界的に危機に瀕している状況もある。観光は平和的な産業であり、「地球市民」という文言を記載している。本計画は観光だけではなく、市民に向けた計画であるという位置づけであり、今後どのような石垣をつくっていくのかを念頭に置き、ご議論いただきたい。
事務局 (前盛)	・配布資料の確認を行った。
事務局 (玻座真)	・会次第に沿って、資料を説明した。

～以下、資料説明に対する質疑応答～

〇〇委員	5点意見がある。 1点目、28頁の基本目標の経済分野の「市民生活が豊かになり市の発展に貢献するまちづくり」という文言に関して、市の発展のために市民が豊かになるのではなく、市民生活が豊かになるために市が発展する順番ではないかと思う。まちづくりにおいて市民生活が豊かになる、かつ、市が発展するまちづくりだという羅列の意味であるならば、「市の発展に貢献し、市民生活が豊かになるまちづくり」という順番が、誤解がなく理解できるのではないか。 2点目、35頁の基本方針2の施策3「地域発展の源泉の保全」の具体的施策に関して、自然環境に対する要素が多いが、文化的要素がない事が気になった。方言や芸能といったものも石垣市らしさを守る要素なのではないかと考えているため、＜主な具体的施策＞などで組み込まれていると良い。また、自然と文化は切り離すことはできないので、併せて組み込んでいただきたい。 3点目、38頁 施策10「MICEの振興」に関して、過去にMICEの運営側として参加したことがあるが、石垣島でやるべきなのか疑問を感じた。MICEの経済効果はあると思うが、受入のお皿が石垣に無いと、島外の企業が企画し、場所として石垣が利用されるだけで、参加者が次回も石垣に魅力を感じてリピートするのか、対応する島の方々が疲弊しないかという懸念点もある。石垣らしいMICEを振興する上での関連会社の育成や事業所へのサポートが必要なのではないか。 4点目、基本方針7「SDGs等新たな潮流への対応」について、観光業者の中でもSDGsの理解度の違いがあるため、市民の理解度向上の施策も必要なのではないか。観光客から、島民の環境保護に対する意識が薄いという声を耳にしたことがある。SDGsとは何なのか、自分たちとSDGsはどのようにリンクしているのか、自分たちにできることは何なのかと、市民の意識向上を組み込む必要があるのではないか。 5点目、46頁のKPI・KGIについて、環境分野のKPIでは、責任ある観光を石垣島に来ることで自然との共生の意識が高まる、観光客に意識を芽生えさせるきっかけになるのではないか。また、観光客の満足度のみならず、マナーやゴミ処理等についてKPIを設定できないか。石垣市としても、責任ある観光を提供し、観光客の意識向上に関するKPIを設定できないか。
越智会長	35頁に記載しているのではないか。
〇〇委員	35頁の文章中では「文化」と記載してあるので、具体的施策に文化に対するものを設けてはどうか。環境と文化はきれいに切り分けられるものではない。
事務局 (玻座真)	1点目の文言に関して、市民生活とまちづくりは並列の趣旨で記載している。順番について記載表現を検討する。 2点目の文化要素に関して、「施策3の具体的施策に文化に関する要素を入れては」という意見として受け取る。＜主な具体的施策＞は事例として記載しており、記載していないと実施しないわけではない。記載表現を検討する。 3点目のMICEに関して、これまでの経緯を意識して細かい記載をしていない。MI

CEの振興は誘客の多角化、長期滞在の誘引の手法の1つとして挙げている。石垣島が客観的なMICEの好適地であるとのデータから記載している。場所だけ利用されるようなMICE振興を推進するわけではないため、開催方法などはマネジメントする必要がある。推進方法も併せて今後検討を深めたい。

4点目のSDGsに関して、推進課と連携の上、取り組みを進めていきたい。SDGsを広める事を観光コンテンツとして結びつけていく事も考えている。

5点目のKPIの意識醸成の指標に関して、今後検討する。アンケート設計などは計画策定後に詳細を検討する。

越智会長

〇〇委員の意見に賛成する。

1点目の文言に関して、主語が2つあるので分かりにくい。「まちづくり」につながるような文章にした方が良い。

2点目に関して、課長が発言されたように主な施策を例示として記載している趣旨は分かるが、文化面の施策例を記載してもいいと思う。

3点目のMICEに関して、石垣らしさの視点も併せて、施設利用だけではなく、MICE後の交流など「アフターマイスの振興」を設定してはどうか。

4点目のSDGsの市民理解の促進に関して、シビックプライドについても繋がるので入れても良いと思う。

5点目のKPIに関して、設定した目標は観測可能でないといけな。すべての事業の評価ではなく1つの評価である。観光客マナーの評価計測は難しいと思うが、アンケートでの集計となるだろう。46頁の観光客の満足度の中に、満足度自己変革に関する設問を満足度と並列してはどうか。

〇〇委員

2点施策について意見がある。

1点目、27頁の理念の「石垣市民は～」という文章が長い。主語は石垣市民で述語は地球的課題にチャレンジするとあるが、まず、石垣市民として何をするか。そして、地球的課題をチャレンジするというように2文に分けてはどうか。

2点目、38頁の施策10「観光客の島内滞在時間延伸」ではワーケーションの推進の話題があったが、「ワーケーションの推進」を入れてはどうか。

3点指標について意見がある。

1点目、46頁の環境分野に関して、「カーボンフリー型エコツアー」は定義ができるのか。陸上は自転車、水上は水上バイクに乗るなど、分け方が難しく評価計測は難しいのではないかと再検討いただきたい。

2点目、官民通じた新交通の導入及び代替燃料の導入率(対前年度比)5%増以上と記載してあるが、かなり高い目標だと感じた。一方で、経済産業省では「2030年までにCO₂を46%削減する」と謳っている。これを踏まえ5%が現実的なのかどうか。国が掲げている目標を石垣市も目指しているとして記載した方がいいのではないかと。

3点目、観光の満足度に加え、自然資源の満足度も一緒に計測してはどうか。

事務局

(玻座真)

施策の1点目の理念については、長文の為、2文に分けることを検討する。

2点目のワーケーションは長期滞在型を誘発するものではあるが、それだけが長期滞在を誘発するものではないので、長期滞在にワーケーションをピックアップするのかが検討する。個人的にはワーケーションは明記しなくてもいいと思う。

指標の1点目のアンケート調査票にカーボン型エコツアーの定義を記載する必要があるかもしれない。当該項目は〇〇さんのツアーを意識して設定した。カーボンフリーを謳っている事業者のツアーに参加した観光客にアンケートを取ることや、設問に定義を記載するなど、詳細はアンケート設計時に検討する。

2点目は、観光分野のKGIを図るための指標で、脱炭素の指標は石垣市全体として行うものなので、観光は5%を目標と記載しており、妥当ではないかと。

3点目の自然環境の満足度に関しては、自然環境の満足度が分かる記載を迫記する。

〇〇委員

エコツアーを沢山出していただき、ありがたい。弊社ではカーボンフリーを意識したツアーを催行している。エコツアーでカーボンフリーを意識しない業者はいない。カーボンフリー型エコツアーという記載は不思議な感じがする。カーボンフリーを意識したマスタワーはあってもいいと思う。

	<p>〇〇委員が発言された、環境意識については、ツアーの参加前後で意識が向上することもエコツアーの目的の一つである。押し量る1つとしてエコツアーがあってもいいのではないかと。</p> <p><より具体的な事業イメージ>はわかりやすい。全ての施策にあってもいいのではないかと思う。</p>
事務局 (玻座真)	環境分野のKPIはカーボンフリーを意識しないとエコツアーではないのか。
〇〇委員	エコツアーと謡っていないくても、少人数を意識している。少人数自体がカーボンフリーに貢献している。
越智会長	カーボンフリーを薦めると、カーボンフリー型ツアーを選ぶ人は増える。カーボンフリー型を選択すると自ずとエコツアーに参加していることになる。
〇〇委員	<p>カーボンフリー型を目的にする人がどの程度いるのか。そのツアーを目的にしたのか、知らないうちに組み込まれていたのか。調査する際に目的にするのか結果にするのかで大きく差が出ると思う。当初からカーボンフリーを目的にしていた方の割合にすると、結果としての参加人数と比べて、かなり少数になると予想される。</p> <p>28頁の④「新型コロナ禍からの経済回復」について、コロナだけではなく、様々なイベントリスクに対応する「コロナ等のイベントリスク」と修正してはどうか。</p>
事務局 (玻座真)	<p>石垣島の訪問目的を全てカーボンフリーツアーにしたいということではなく、カーボンフリー型ツアー参加者数増加が目的なので、アンケート調査は空港や市内などの人が多く集まる場所で、シーズンごとに実施するかもしれないが、詳細は今後検討を深める。興味をもって参加した方に回答いただけるようなアンケート仕様としたい。</p> <p>28頁の④「新型コロナ禍からの経済回復」に関して、コロナ前の状況に復興することが目標だと思うが、全ての施策がコロナ対策ではないことは明白である。まずは「コロナから回復していく」という共通目標として共有したい。</p> <p>イベントリスクとはどのようなものなのか。</p>
〇〇委員	イベントリスクとは台風などの自然災害が含まれ、イベントで発生するリスクのことである。
事務局 (玻座真)	現在はコロナで経済的大打撃を受けている状況なので、該当頁のような記述としている。
越智会長	KPIに関して、計測方法はこれから検討を深める。
越智会長	28頁に関して、基本目標「観光まちづくり」から「まちづくり」に変更したが、どうか。観光まちづくりという文言が一般的でないという考え方から変更している。「まちづくり」と記載すると、石垣全体のまちづくりを個別計画である観光計画で記載することの方が違和感を覚える。どちらの方が違和感を覚えないか。
〇〇委員	仕事の関係もあるが、「観光まちづくり」が良い。市民がどう思うか。
越智会長	事務局内や審議会にて最終調整を経て記載表現を調整したい。
越智会長	<p><より具体的な事業イメージ>に予め事業イメージを挙げすぎると、今後の施策展開が限定され過ぎる可能性が危惧される。42頁の「レスポンシブルツーリズム」とは観光に対する意識のことである。「レスポンシブルツーリズム商品」との表記は誤解を招く恐れがある。石垣市のレスポンシブルツーリズムの観光のスタイルの創出のイメージにしてほしい。</p> <p>また、推進体制主体は「観光まちづくり協議会」であるべきではないか。</p>
〇〇委員	<p>46頁、47頁に関して、経済分野アンケート調査と記載されているが、アンケート回答者の事業規模などで実態が大きく変わるため、市内の総生産、産業連関表や循環分析を活用したほうがいいのではないかと。経済波及効果は比較することが重要であり、比較することで分布図ができ、経年的に比較することができる。</p> <p>50頁で、観光地経営はマネジメントが先でマーケティングとブランディングを入れた方がいいと思う。また、「まちづくり」を「観光の在り方」としてはどうか。</p> <p>旅行者の意識は、もともとツアーに参加するためにだったら変わらないが、現地を決めると意識のフェーズがもともと低いので上がりやすい。</p>

	SDG s に関しては、諸刃の剣であり、マイナスイメージになる可能性もあるが、サステイナブルの視点は重要である。しかし、スイスではサステイナブルは当たり前であり、SDG s のロゴは入っておらず、これから取り組んでいくのは途上国であるという見方もある。観光のプロモーションで対外的に発信する際には要注意である。サステイナブルは重要だが、SDG s は今更なイメージもある。
事務局 (玻座真)	石垣単独の連関表は無いので今後取り組みたい。経年で計測しないといけないので、開始時での設定が重要となる。比較方法は運用時に意識する。
越智会長	51 頁に関して、黒字記載を削除いただきたい。「頭脳」や「手足」のような表現は上下関係を示唆するため修正いただきたい。
越智会長	今後の新しい推進体制に期待する。
〇〇委員	46、47 頁の社会文化分野に関して、観光立市の記載は重要である。「観光客が来て良かった」と思う市民の割合は少ないと思う。観光関連事業者以外は「観光客が来て迷惑」と思う市民も多いのではないかと思うので、観光客に好意的な方の割合を挙げることは重要である。KPI の該当箇所の文言を再考してはどうか。観光客に対して好意的に捉えている市民の割合でも良いのではないか。 SDG s は項目自体が多く、幅広い。取り組んでいない事業者はいないと思う。取り組んでいることが当たり前なので、KPI としてふさわしくないのではないか。 観光まちづくりに参画する市民に関して、年間で活動回数、目標人数などの詳細を設定してはどうか。
事務局 (玻座真)	KGI に関して、異論はない。 「⑥観光客と地域の良質な接点づくり」の表現に関しては再考する。 「⑦SDG s 等新たな潮流への対応」の取り組み割合に関して、10 年間観測することを考慮して、どの様な設定が良いのか再考する。 「⑧市民協働による観光まちづくりの推進」は、市民でも協働が進んでいるという目標として設定しているが、基準となる目標を基に計測したほうがいいが、記載されている文言でも問題ないと思う。設問設定を検討する。
越智会長	KPI は誤解を生みやすく、事業進捗の目安でしかない。 ⑧は参加者が減ることなくという趣旨であるが、増加を目標としている。 ⑦は県では沖縄 SDG s パートナー制度がある。3 年目で 410 程度の団体が含まれるが、観光関連の事業者の参加表明は少ないように感じる。表明は最低限しないといけないが、SDG s ウォッシュもあり、表明することに消極的ではないかと思う。しかし、自己表明する事業者を増やすことは現実的ではあるのではないか。 嫌悪感「負のイメージ」になってしまうが、「観光客に好意的である方が急激に増える」ことは理想的過ぎると思い、あえてネガティブな表現に設定した。
〇〇委員	経済波及効果の経済分野に関して、域内調達率 65%とあるが、高過ぎるのではないか。 私はホテル購買担当が長く、島内から原材料等を調達したいが、安定仕入れができない現状がある。客数が増えると安定仕入れができないので、必然的に県外から仕入れられることになる。アンケート回答者の事業規模にもよるが、規模の小さい事業者では島内みの原材料等の調達が可能かと思うが、大きい事業者では域内調達率が 20%~30%となってしまうのではないか。需要と供給のバランスの問題がある。
事務局 (玻座真)	域内調達率は事業者アンケート結果から設定したが、現在の石垣島域内調達率は 30%程度である。10 年後の目標をどうするのかは、安定仕入れのバランスとの問題もあり、量より質を求めることの検討も必要である。 目標を高め設定する意義はあるが、高過ぎるとなれば再検討する必要がある。
〇〇委員	地元金融機関と連携して市単独で産業連関表を設定する場合もある。目標を高め設定することで、チャレンジする意識が表れて良いと思う。
越智会長	非常に挑戦的な計画となっている。パブリックコメントでも厳しい意見もいただいたが、「しっかりやってくれよ」との趣旨での意見が多いように感じた。次年度以降、事業をしっかりと進めていただきたい。

次年度以降の立場は分からないが、琉球大学としても本計画を基本として学生を交え、委員のみなさまと石垣島の観光まちづくりについて、末永くお付き合いいただきたい。

事務局
(玻座真)

本日をもって、意見を直に確認する場はないため、修正に関しては越智会長と事務局にご一任いただきたい。ご意見、ご指摘を反映した案を来週の審議会に提示する予定である。

一同

修正対応を越智会長と事務局に一任する。

【実施風景】

